2013.03.30開催
「これからの湖山池の姿を考えるフォーラム、湖山池はどう変わったのか？」に関する新聞報道

2013/04/01 日本海

たい」と話していた。
花文字は4月中旬ごろまで見られるという。

湖山池の将来考える

鳥取でフォーラム

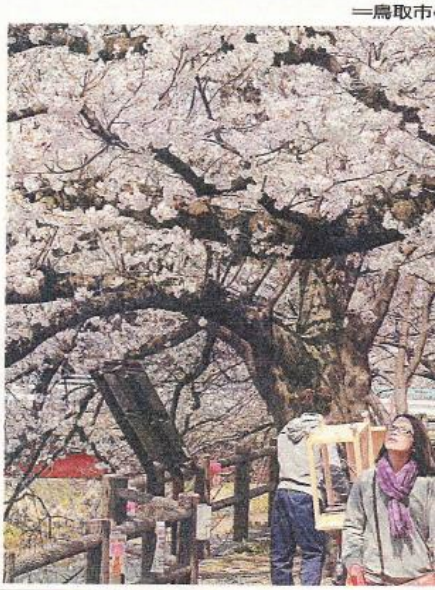
水門開放から1年がたつ鳥取市の湖山池の生物多様性の現状や問題について理解を深めようと、NPO法人鳥取環境市民会議は3月30日、鳥取市のとりぎん文化会館で、さまざまな立場の専門家を招いたフォーラム「湖山池はどう変わったのか」を開いた。会場に詰め掛けた市民らが提言に耳を傾け、湖山池の今後について考えた。

基調講演では、県の職員が観測データを基に塩分濃度や溶存酸素量などについて説明。アオコやヒシの繁茂抑制に効果があったことを報告し、生物多様性の保全にも努めていることを強調した。

これに対し鳥取大学の鶴崎展巨教授は、汽水化により池に生息するカラスガイが全滅したと報告。県や市が定めた湖山池の将来ビジョンは、専門家を交えず環境アセスメントも行わずに進めた法律違反だと非難した。

2013/03/31 毎日　鳥取版

桜を眺めながら散歩する人たち
＝鳥取市



汽水湖化を考える
湖山池フォーラム

160人参加

県と鳥取市が進めている湖山池の汽水湖化について考えるイベント「湖山池はどう変わったのか？」（鳥取環境市民会議主催）が30日、同市尚徳町のとりぎん文化会館で開かれ、約160人が各講演者の話に耳を傾けた。

県水・大気環境課の広田一恭課長は、昨年3月から池と日本海を分断していた水門の開放頻度を多くし、塩分濃度の調整を開始したと説明。大量発生で汚臭問題などを引き起こしていたヒシの繁茂が、塩分濃度の上昇で抑制されるなど想定通りの効果を見せてきたと話した。

一方、鳥取大の鶴崎展巨教授（生物学）は「汽水湖化で淡水性生物が死滅し、多様性が減少する。県は地元専門家の意見を無視した」などと非難。日本野鳥の会県支部の福田紀生代表も「汽水湖化で姿を消してしまう鳥たちもいる」と自然環境の変化に懸念を示した。

会場からも「人が勝手に自然を変えてしまって本当に良いのか」などの声が上がり、広田課長は「周辺住民の劣悪な生活環境を解消するため取り組んだ。不十分ではあるが、生態系保全と両立できるように取り組んでいる」と釈明した。講演を聞いていた聴衆の中には「県は汽水湖化ありきではなく、情報を県民にきちんと説明した上で県民に判断してもらうべきだった」と話す人もいた。【川瀬慎一朗】